

Vol. **4**

福祉たすけあい基金BOOK

6期の助成団体紹介

福祉
たすけあい基金



公益財団法人

かながわ

生き活き市民基金

Kanagawa Lively Citizens Fund

目次

公益財団法人 かながわ生き生き市民基金は	3
福祉たすけあい基金とは	4
萩園いこいの里ロビー活動実行委員会	5
NPO 法人 ひだまりの森	6
NPO 法人 ごかんたいそう	7
NPO 法人 スマイルオブキッズ	8
福島子どもこらっせかながわ	9
特定非営利金融法人女性・市民コミュニティバンク	10
神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会	11
1 期～5 期福祉たすけあい基金・子どもいきいき助成・エラベル助成団体	12・13・14
「福祉たすけあい基金スタート助成」で市民活動の立ち上げ支援	15
ご寄付のお願い	16



公益財団法人 かながわ生き生き市民基金は・・・

◆成り立ち

食料・環境・福祉の分野での問題解決を、市民参加型ですすめてきた生活クラブ生活協同組合（1971年創立）は、90年代初頭から、市民が時間・知恵・労力・いくばくのお金を出し合って当事者となる参加型福祉運動を実践してきました。その担い手は主にワーカーズ・コレクティブという働き方を行う女性たちでした。

1990年代当時、これら女性たちの意志ある社会貢献事業に資金を貸す金融機関は無いため、自前の財源による市民バンク（「女性・市民コミュニティバンク」の前身）をつくり、1998年から市民事業への融資を始めました。

生活クラブ生協は2003年に組合員に呼びかけて、福祉たすけあいにかかわる市民の福祉活動・非営利の市民事業の基盤造成・活動支援を行うための組織「生活クラブ福祉たすけあい基金」を設立しました。そして「生活クラブ福祉たすけあい基金」の10年間の助成活動の実践を経て、2013年にはこの事業を地域社会の中に押し出し、「公益財団法人かながわ生き生き市民基金」を設立しました。

◆ミッション

<投資して利潤を稼ぐことが経済>という考えが現代社会に蔓延しています。つまるところ、人々の社会生活は「経済成長」に付き従うべきだという主張につながります。しかし一方で、豊かな生活をつくるのが経済の目的で、お金はそのための手段であるという考え方があります。人と人との関係の中に「温かいお金」を循環させようという主張です。

私たちの社会は、格差・貧困が野放図にすすみ、個人の権利や尊厳が、労働・教育・環境・平和など生活の中心分野で損なわれつつあります。女性や若者、子どもや障がいを持つ人が生きにくい社会になっています。

かながわ生き生き市民基金は、ひとりでは支えきれない地域社会の課題の解決を、お互い様から始め、更に相互扶助に留めず、人・団体・活動を、お金や情報の循環でつなぎ、市民が持つ知恵・労力・時間・いくばくのお金などの社会資源を抛出し合い、市民が共に力を合わせ、自立した「地域市民社会」をめざします。

◆基金の事業・活動

かながわ生き生き市民基金の中心事業は、市民による寄付造成とこれを財源とした助成を通じた市民活動・事業への支援です。現在3つの助成プログラムを行っています。

福祉たすけあい基金（2015年度から通常型助成とスタート助成を実施）は、意思ある生活クラブ組合員1万1千人の月100円寄付を基本財源とした助成プログラムです。事業指定助成プログラム「エラベル」は、登録した団体が寄付募集活動を行い、財団はこれを支援します。オーダーメイドプログラム（2015年助成の「子どもいきいき助成」）は寄付拠出者が助成プログラムを指定します。

助成事業以外には、講座事業、ネットワーク事業などを行っています。



福祉たすけあい基金とは

かながわ生き生き市民基金の助成事業の一つに留まらず、かながわ生き生き市民基金を支える基金です。福祉は人々の生活そのものといってよく、福祉たすけあい基金では高齢者・子ども・女性、外国人、障がい者など様々な弱い立場の人々を支援する活動に助成しています。

福祉たすけあい基金の特徴 ～1万人に支持される基金～

98%以上にあたる寄付が生活クラブ組合員1万1千人の毎月100円の寄付で寄せられています。このことは福祉たすけあい基金の強みであり、弱みであると言えます。顔の見えるおおぜいの支持者をさらに拡げつつ、ミッションを伝え地域の寄付者を拡げていかなければならないと考えています。

福祉たすけあい基金にはこれまで128団体から約7,600万円の申請があり、58団体へ2,030万2,383円を助成しました。

1期～6期の実績（5期はスタート助成）

1期	助成2014年4月	申請34団体 約2400万円	助成9団体 451万4100円
2期	助成2015年2月	申請17団体 約700万円	助成12団体 394万4950円
3期	助成2015年5月	申請34団体 約2400万円	助成11団体 382万2000円
4期	助成2015年8月	申請20団体 約1000万円	助成13団体 338万9000円
5期	助成2016年3月	申請12団体 約390万円	助成6団体 166万7633円
6期	助成2016年8月	申請11団体 約640万円	助成7団体 324万5769円

申請事業活動の特徴

第1期から第6期、計58団体に助成を行ってきた中で、もっとも多かったのが子ども・若者への活動を行う団体でした。今回（第6期）、助成団体を見ても、7団体中4団体が子ども食堂、居場所、子ども保育、子どもホスピス、福島交流を通して、子ども・若者の課題解決に向けた活動を行っています。また、可視化が難しい、子ども・若者の貧困に対して直接活動を行うフードバンクの申請もできています。

市民活動の先駆性・有効性・参加性・持続性、 そして社会を変える意気込みに期待

選考に当たっては、事業・活動の先駆性や有効性ととともに、広く地域の人々や団体と連携し、時間・知恵・労力・お金などを抛出しあい、市民が主体となり地域の課題を解決する参加性が重視されます。また市民事業・活動を生み出し、育成し、事業拡大するだけでなく、市民の実践を根拠にアドボカシー活動を行い、社会を変えていく志が拡がることが期待されています。

選考委員（敬称略）

委員長 小山紳一郎	横浜市にしく市民活動支援センター センター長
田中 夏子	研究者（前）都留文科大学 教授
米田佐知子	子どもの未来サポートオフィス 代表
奥山千鶴子	（特非）びーのびーの 理事長
高城 芳之	横浜市指定NPO法人アクションポート横浜 事務局長
瀬下 章子	女性市民コミュニティバンク 副理事長
城田 喜子	生活クラブ生協 副理事長
小林 洋子	さがみ生活クラブ生協 理事



萩園いこいの里ロビー活動実行委員会

代表者 安藤 明 茅ヶ崎市

助成金額
243,500円

団体紹介

設立年月

2006年4月

団体の目的・活動内容

子どもの貧困が社会問題になってきているなかで子どもの見守り、育成と地域の交流を目的に実行委員会を立上げ「みんなで食べよう会」「土曜ミュージックサロン」「絵本の読み聞かせ」「図書コーナーの充実」の企画及び運営を行っている。

取り組んでいる活動の思い

「みんなで食べよう会」

「孤食」、「買い弁」、「食抜き」が日常化している子ども達に、新鮮な野菜、炊き立てのご飯、そして皆で作れ、食べる美味しさを味わってもらおうと、活動している。近所のおばあちゃん達、民生委員、若い人たちのお手伝いも大いに助かっている。

「土曜ミュージックサロン」

障がいがあっても、高齢で車いすでも、子どもでも誰でも気軽に無料で上質の音楽を楽しむ機会を作っている。会場づくりや片付け、子ども達や障がいのある人も積極的に手伝ってくれる。演奏の素晴らしさは言うまでもないが、様々な人がいる会場全体がすごい空間だと感動している。これを企画し、開催できる幸せを実行委員は感じている。

「絵本の読み聞かせ」

ゲームが主流の子ども達の世界。それを否定はしないが、幼児期に絵本に親しんでもらえたらと企画している。障がい児の学童保育の一環としての利用もある。

「絵本の充実」

隣接する県営住宅に移動図書館はくるが、読みたいときに本がある場所を身近に作りたいと考え、少しずつ本を購入している。

活動歴

2006年から

「みんなで食べよう会」・・・偶数月

「土曜ミュージックサロン」・・・奇数月

「絵本の読み聞かせ」・・・毎月第4木曜日

団体情報

住所 茅ヶ崎市萩園1215-4

TEL 0467(88)7513

Mail midorigo@hotmail.co.jp

❀ 助成した事業・活動

「みんなで食べよう会」「土曜ミュージックサロン」「絵本の読み聞かせ」
「図書コーナーの充実」

❀ 内容

「孤食」や「買い弁」が日常化しているなかで、近隣の農家から頂いた野菜を使い、子ども達がボランティアさんと食事を作りみんなで食べる。また誰でも気楽に参加できる音楽祭、絵本の読み聞かせを開催。子どもの見守りとともに地域の交流を図っている。ボランティア講師の交通費、調理用品、図書購入費を助成。

助成を受けて・・・の思い・メッセージ

助成が受けられたことに心から感謝しております。

私たちの活動は、地域性を考え「無料」を前提にしております。子ども達や障がい者、地域のボランティアさんのお手伝いがあってこそ成り立っています。また本当に支援の必要な子ども達が弾き飛ばされないよう心掛けて活動を続けています。

試行錯誤の連続ですが、実行委員も無理をせず楽しみながら活動を続けることをモットーに、この1年充実した活動をしたいと思っています。有り難うございました。



ミュージックサロン



絵本の読み聞かせ



みんなで食べよう会

団体紹介

設立年月

2006年4月

団体の目的・活動内容

困難な状況でありながら必要な支援に繋がっていない親子が増えており、虐待等の危機的状況を未然に防ぐためには、同じ親としてともに考える数居の低い相談が必要と考えています。支援に抵抗感を抱いていたり、SOSを発信しにくい孤立した親子と社会資源の接点となることを目的として、匿名で無料の電話相談を軸に活動しています。

取り組んでいる活動の思い

相談員自身も悩みながら子育てをしてきており、同じ親として相談者に寄り添い、解決の糸口を一緒に考える相談を行いたいと思っています。勇気を出して相談してくださった方の「力」を信じ、活動をしています。

活動歴

元横浜市乳幼児家庭教育センター相談員が立上げ

2006年4月 横浜市男女共同参画推進協会子育て期の相談事業 受託

2010年3月 同受託事業廃止

2010年4月 自主運営の相談室 開設

「ひだまりの森 子育て期の相談」

電話相談件数 年間1,400～1,500件

グループ相談・専門相談 年間30件

支援者対象研修 年間5～10回

講師派遣・親子対象事業等 不定期実施

団体情報

住所 横浜市港南区日野南6-19-20

TEL 045-843-6362 事務局

045-341-3607 相談室

Mail

hidamarimori1154@sky.hi-ho.ne.jp

❀ 助成した事業・活動

「働く親と支援者のための週末相談・研修」立ち上げ事業

❀ 内容

従来の平日実施の相談・研修事業に加えて、月1回土曜の電話相談を行う支援者対象の研修費。

平日働く親・支援者に向けて事業周知の広報費を助成。

助成をうけて…の思い・メッセージ

これまでは、週末明けの月曜日、電話の着信履歴を見ると、せっかく電話をかけてくださった方に心苦しく思っていました。助成をいただいたことにより、新たなニーズにお応えできることが嬉しく、感謝しております。

今はまだ月1回実施の小さな一歩ですが、助成によりしっかりと基盤をつくり、当事業を充実させたいとスタッフ一同、張り切っています。



2015 年度 支援者研修
「コーチング」



電話相談の様子



相談室

NPO法人 ごかんたいそう

代表理事 全田 和也 逗子市

助成金額
500,000円

団体紹介

設立年月

2012年3月

団体の目的・活動内容

自然・アート、地域コミュニティを取り入れた子どもたちのくらしの場づくりを通じて、子ども達の生きる力、子どもたち一人一人の自分を誇れる個性、自然を大切にすること、地域への愛情を営んでいく。

取り組んでいる活動の思い

僕たちごかんたいそうが取り組んでいるのは、“自然やアートを通じて、子どもたち一人ひとりの「いきるちから」と「自分を誇れる豊かな個性」を育む、子どもたちのくらしの場づくり”。

そしてその目指す先には、“一人一人の個性が豊かに表現され、つながりあい、感動しあえるような多様性・カラフルな社会”があると信じています。

一つ一つ異なる原石が、成長とともにそれぞれ研ぎ澄まされていって、いろんな色の光を発しているような、カラフルな世の中。僕たちは、そんな世の中が子ども達の未来にひろがっていることを願って、日々、子ども達のくらしの場作りに取り組んでいます。

活動歴

2011年4月 逗子海岸そばの古民家にて保育園「ごかんのいえ」開園

2015年4月 逗子披露山の森の中に食育菜園・保育園「ごかんのもり」開園

2016年9月 逗子駅前商店街に、まちにひらかれたコミュニティスペース「ごかんのえき」を開設

団体情報

住所 逗子市新宿3-2-33 (ごかんのいえ)

逗子市新宿4-7-32 (ごかんのもり)

逗子市逗子1-10-14 (ごかんのえき)

TEL/FAX 046-874-8370

Mail 5kantaiso@gmail.com

✿ 助成した事業・活動

コミュニティスペース「ごかんのえき」の立ち上げ

✿ 内容

子ども達の放課後の居場所づくりや子育てママ向けのワークショップを中心としたコミュニティスペースの家賃の一部を助成。

助成を受けて…の思い・メッセージ

今回の取り組みは、放課後の子どもの居場所作りや子育てママの居場所作りなどを通じて、地域のコミュニティづくりを目的としています。このスペースに集う市民一人一人にとって、心の居場所ができることを願っております。

この取り組みは、市民参加型での運営を目指しており、この活動を通じて、多様な市民がつながり、コミュニティがひろがるきっかけになればと考えています。



ごかんのえきにて、放課後に子どもたちが風鈴作りをしている様子

保育園の園児たちが地元の森の中で活動している様子



ごかんのえきの子育てママ向けのワークショップの一環で、畑の野菜を収穫している様子

団体紹介

設立年月

2003年9月

団体の目的・活動内容

闘病中の子ども達の基本的な人権が尊重され、最善の医療を受け日々の生活の質を向上させることが出来るよう、本人及び家族に精神的、物質的支援をする事業並びに小児医療に関わる法人、団体への支援事業を行うとともに闘病中の子ども達の現状を広く社会に伝え、志のあるボランティアを育成することによって、広く社会全体の子育て環境の改善に寄与していく。

活動内容は、神奈川県立こども医療センター近くで宿泊滞在施設「リラのいえ」の運営、施設内で入通院している病児のきょうだい預かり保育、重症心身障害児と家族への音楽支援、小児ホスピス設立準備活動を行っている。

取り組んでいる活動の思い

我々のミッションは「病気や障がいがある子どもの未来を変えていく」ということなので、家族支援は何とか活動できていますが、その先にいる小児がんや医療的なケアが必要な子ども達の在宅支援施設がまだ我が国にはほとんどありませんので、看取りまでができる在宅支援施設、こどもホスピスを県内に設立したく活動を続けています。

活動歴

2003年より小児病院で院内コンサート、院内預かり保育、2005年よりチャリティーコンサートを開催し募金活動にて建設資金を集め、2008年より宿泊滞在施設「リラのいえ」を開設運営、同年きょうだい児預かり保育事業開始、重症心身障害児と家族を支える「地域がささえるふれあいコンサート」を8年継続している。

団体情報

住所 横浜市南区六ツ川4-1124-2
TEL 045-824-6014
Mail lilanoie@lilac.plala.or.jp

助成した事業・活動

遊び方研究会活動（小児ホスピス設立準備活動）

内容

小児ホスピスのデイサービスとしての利用者（重い障害や医療ケアが必要な子ども）やきょうだいとの遊び学びの実践研究ワークショップの講師謝金、交通費、ボランティア交通費、広報費他を助成。

助成を受けて…の思い・メッセージ

小児ホスピス設立の建設のための募金がたくさん集まっているので決算書からはなかなか準備への助成が得られないところでしたが、施設の大事なコンテンツの一つで、利用する病気の子供やきょうだい児への遊び方を皆で考えて実践できるようにしていくことが必要な研究です。選考していただきありがとうございました。



ふれあいコンサート

きょうだい預かり保育



滞在施設リラのいえ

福島子ども・こらっせ神奈川

代表 山際 正道

福島県
神奈川県助成金額
790,000円

団体紹介

設立年月

2012年4月

団体の目的・活動内容

原発災害にあった福島の子もたちへの支援をしようと「こらっせ」を立ち上げました。事務局は①特定の地域、できれば同じ学校の子もたちを招く②行政との関係を構築し将来は「移動教室」を目指すという目標をたて、学習と遊びを組み合わせたりフレッシュプログラムを実施することにしました。送り出す側の檜葉町、受け入れる側の山北町の行政には、賛同してくださる方々と共に様々なサポートをいただいています。近年は「交流」の大切さを実感し、その一環として檜葉町の「学童保育支援」なども行っています。

取り組んでいる活動の思い

3.11の衝撃の後、私たち大人は、次の世代に放射能で汚染された大地を、海を、そして大気を渡さなければならない自分を恥じたのではないかと思います。子どもたちの未来に何ができるのかを考えた私たちは、長く続く「原発被災」にプログラムを通し向き合っていこうと思いました。また、プログラムを重ね、子どもたち・学生ボランティアの成長する姿を目にするうちに「交流」は「生きる力」を育むと実感。事務局スタッフも、「交流」により多くの方々と知り合い助けられ、一緒に働く「若い力」から元気をもらい、活動のエネルギー源となっています。

活動歴

2012年から8月にフレッシュプログラムを毎年開催。例年5月には福島から講師を招きキックオフミーティングを実施。2014年からは「移動教室」の実現のために文科省交渉をスタート。また、「神奈川に行けない小さな子どもたちのためにこちらに来てほしい」という現地の要請にこたえて「こらっせユース」が結成され、春休み、夏休みにいわきにある檜葉町学童保育の応援を実施。

団体情報

住所 横浜市磯子区磯子7-15-1-509

TEL 045-353-9008

Mail info@korasse-kanagawa.org

❀ 助成した事業・活動

神奈川リフレッシュ（保養）プログラム・学童保育支援

❀ 内容

神奈川県山北町・横浜市で実施する保養参加者の交通費、および大学生を中心に春と夏休み等に檜葉町が運営する学童保育へ応援に行く人件費・交通費の一部を助成。

助成を受けて…の思い・メッセージ

3.11から5年半が経過し甲状腺がんとその疑いが172名と報道されながらも、子どもたちの健康問題への世間の関心は薄れつつあり、私たちのようなグループは財政・人的資源などの問題を抱え、存続の危機にさらされています。細く長く活動を継続していくためには、①持続可能な財政②若い担い手の育成③現状に呼応した企画が必須。今年度は緊縮財政のために交通手段として列車を使いましたが困難も多く、来年はバスを使えるので助かります。また、若いメンバーが中心で企画している「学童保育」派遣への助成に、ユースも喜んでいました。「フクシマを忘れない」というみなさまの気持ちを受け止めて、大事に使わせていただきます。ありがとうございます。

横浜での集合写真



保山北町でのプログラムでは、川遊びやスイカ割りなど自然とたくさん触れ合いました。



学童保育では、大学生が現地で理科実験、料理、運動等、それぞれの得意分野を活かして遊びます。

特定非営利金融法人 女性・市民コミュニティバンク

理事長 向田 映子

県域

助成金額
516,800円

団体紹介

設立年月

1998年1月

団体の目的・活動内容

市民の出資金を原資に、女性・市民を中心に
した非営利・相互扶助による透明性の高い金
融によって、NPOやワーカーズ・コレク
ティブ等の市民事業・社会的企業の起業や運
営を支援し、地域経済の発展や豊かな地域社
会づくりに貢献する。

取り組んでいる活動の思い

「自分のお金を地域社会の役に立てたい」
「戦争や環境破壊につながる預貯金の流れ
を変えたい」「目に見えるお金の流れを作
りたい」「金融から排除されている女性た
ちの市民事業を応援したい」。18年前、
私たちは、市民がお金を出し合い、日本人
が鎌倉時代から行ってきた相互扶助の金
融を立ち上げました。

これまで、保育園や高齢者のデイサービス
やグループホーム、環境保全、安全な食を
提供しているレストラン、365日1日も
休まず地域で実施している配食サービス、
アジアの女性たちの自立を支援している
チャリティショップ、若者や生活困窮者の
自立支援、太陽光発電等々の事業の立ち上
げや次の事業展開への運転資金など、地域
社会を豊かにし、生活の質を高めるサービ
スを提供している団体などに融資を行っ
てきました。返済されたお金は、また他の
融資先に回る「お金の地域内循環」を繰り
返しています。融資先はニュースレターや
ホームページで公開しています。

活動歴

1998年「女性・市民信用組合設立準備会」
設立。同年貸金業登録、融資開始。
2009年「女性・市民コミュニティバンク」
に名称を変更、信組設立は休止し、貸金業
による融資を行うNPOバンクに特化した
活動・事業体に。
2010年、特定非営利金融法人となる。

団体情報

住所 横浜市中区南仲通り4-39
石橋ビル3F
TEL 045-651-2606
Mail wccsj@bank.email.ne.jp

助成した事業・活動

「市民金融の可能性を広げる」検討プロジェクト

内容

これまで課題としてきた事項について、プロジェクトを立ち上げる。他
のNPOバンクや協同組織金融機関の元職員等にも参加していただき、
3チーム（他の金融機関との共同融資の可能性、社会的投資の基準、今
後の市民金融の形態の可能性に関する検討）により検討し答申書を作
成、7月にフォーラムを開催するための講師謝金、交通費、会場費他を
助成。

助成を受けて…の思い・メッセージ

市民からの出資金（貸付原資）はあるものの、運営費に常に苦慮し
ている当団体にとって、今回の助成は、プロジェクト内容を深堀する
ことが可能になり、あらためて、本基金を形成している市民の皆さま
に感謝します。



出資者と融資団体が一堂に一総会で



融資先（企）パンの樹あるれ
の作業風景（設備費を融資）



融資先（特非）さくらの森・親子
サポートネット（小規模認可保育
の開設資金を融資）

神奈川ワーカーズ・コレクティブ連合会

理事長 木村 満里子 県域

助成金額
350,000円

団体紹介

設立年月

1989年9月

団体の目的・活動内容

ワーカーズ・コレクティブ(W.Co)は、地域の生活ニーズに応え多種多様な分野で働き場づくりを自主運営・自主管理・協同組合形式により取り組む事業体。

取り組んでいる活動の思い

地域コミュニティの崩壊、ご近所つながりの希薄化、少子化と高齢化の同時進行、出産年齢の高齢化を背景に、子育てと親の介護を同時に行うダブルケアの増加が大きな課題となっている。

ダブルケアは、W.Coメンバー・利用者にとっても物理的、精神的、経済的課題となる一方、W.Coのサービスが有効なケアとなる実態も明らかになっている。社会課題として、ケアラー支援を地域住民やW.Co及び市民団体に呼びかけ、具体的な対策につなげていく。

活動歴

1982年 W.Co 誕生

1989年 W.Coの問題解決とW.Coを拡大し、社会的認知を得ていくための条件整備や基盤づくりのために連合会を設立。新規W.Co設立支援、共育、広報活動などに取り組む。

2012年 相馬直子先生・山下順子先生のダブルケア調査に、家事介護部門・保育部門のW.Coが参加協力。

2015年度 横浜国大との共同事業でW.Coメンバーと福祉サービスの利用者を対象とする実態調査を実施。

団体情報

住所 横浜市中区南仲通り4-39
石橋ビル4F

TEL 045-662-4303

Mail union@wco-kanagawa.gr.jp

❀ 助成した事業・活動

20会場での「ダブルケアカフェ」開催とフォーラムの実施費用、ダブルケアフォーラムの開催

❀ 内容

カフェの開催費用（広報費用、講師謝金、材料費・交通費等の補てん）、フォーラム開催費用（チラシ費用・講師謝金・会場費・資料代）を助成。

助成を受けて…の思い・メッセージ

昨年行ったダブルケア調査では、ダブルケアの現状を知ってほしいという意見がたくさんありました。

この度助成の決定を頂いたことで、ダブルケアという課題の共有の場をたくさん持つことができます。支援の輪を広げる事、継続的な課題の共有の場づくりなど、地域のW.Coや市民団体の新たな取り組みにつなげていければと考えています。

今回のカフェ開催をきっかけとして、地域でのつながりをより一層強くするとともに、カフェで明らかになったダブルケアの事例や地域での取り組みを共有するフォーラムを開催し、多世代にわたる新たな助け合いを生み出すきっかけとします。



2016年10月9日
ダブルケアカフェ風景①



2016年10月9日
ダブルケアカフェ風景②

1期～5期福祉たすけあい基金助成団体



	名称	活動地域	事業内容	助成金額
1期	NPO 法人グランマ	横浜市	児童発達支援・放課後等デイ・サービスの運営	800,000 円 人件費等
	子育て支援 W.Co mon Ami	横浜市	オルタ館4階での親子ひろばの運営	350,000 円 人件費等
	街の家族実行委員会	横浜市	「人と人・技と技、皆が繋がる街の家族」の世代を超え地域をつなぐ活動	420,000 円 人件費等
	ひまわりの会	横浜市	地域の外国籍の子どもたちの学習支援サポート	600,000 円 外部研修費
	NPO 法人ワークーズ コレクティブ協会	県域	障がい者、社会経験の少ない若者の就労支援・社会参加の場づくり	999,600 円 ジョブコーチ費
	大場町みんなのいえ W.Co 準備会	横浜市	大場町みんなのいえ・サロン&まちの台所の運営 (多世代が交流できる場、地域の働き場の運営)	500,000 円 人件費等
	NPO 法人ぶかぶか	横浜市	障がい者と地域の人との交流をはかる 「みんなでワークショップ」開催	493,500 円 会場費 講師費
	ReBit (リビット)	東京・ 神奈川など	LGBT(性的マイノリティ)のこどもも安心して相談できる 保健室づくりプロジェクト@神奈川の活動	186,000 円 運営費
	大倉山ドキュメンタリー 映画祭実行委員会	横浜市	大倉山ドキュメンタリー映画祭を通じて地域交流、地域の 活性化をはかる活動	165,000 円 広報費等
2期	NPO 法人 Music of Mind	藤沢市	知的障がい者の音楽活動を通じた就労の場と繋がりづくり	678,710 円 楽器購入費等
	NPO 法人「CLIP・あこーん」 電話相談室	横浜市	心をつなぎ、心をつぶボランティア電話相談事業 (寄り添いつつ相談に応じる無料電話相談)	558,200 円 家賃補助
	NPO 法人大和子どもミニ ディサービス W.Co もこもこ	大和市	子ども子育て新法による認可保育園移行に向けた支援	295,920 円 イスの購入費等
	Charkhafe チャルカフェ	小田原市	親子で利用するキッズスペースの運営(子育て世代の地域 社会づくりをめざす居場所づくり)	368,000 円 整備費用等
	おしゃべりッチ∞	横須賀市	孤立しがちな子育て中の親子ひろばの運営	17,000 円 会場費
	認定 NPO 法人エンパワメント かながわ	県域	1万人の子どもに CAP を届けるキャンペーン・次世代育成に学生 がかかわる仕組みづくりプロジェクト	421,220 円 研修費等
	就学前親子のためのふれあい サロン「いぬぞう」	川崎市	新旧住民をまき込んだ就学前親子のための「ふれあいサロ ン」の運営	109,214 円 チラシ作製費
	NPO 法人ひまわりの会	横浜市	外国籍の子どもたちの生活サポート事業	100,000 円 研修費
	湘南小麦の会	湘南エリア	手づくり小麦で元気を分け合う交流会の開催(農を通じた認知症・ 障がい児者・ケア者エンパワメント)	150,000 円 脱穀機購入等
	アートが子どもたちを 訪ねて来る会	横浜市	フォスターケア(里親制度)で暮らす子どもたちを訪ねるアートプログラム(施設や 里親家庭で暮らす子どもたちのアートを通した「再認識した自分」発見)	160,000 円 ワークショップの備品等
	NPO 法人アール・ド・ ヴィーヴル	小田原市	知的障がい者向けの多機能施設開設(障がい児の個性を輝 かせる仕事を生み出す場づくり)	800,000 円 設備費一部
	神奈川わかものシンクタンク	相模原市、 県域	中学生を対象にしたみんなで楽しく「神奈川県防災副読本」 作りと活用	286,636 円 印刷費一部
	NPO 法人楽竹会	横浜市	創作「竹琴太鼓」を使った高齢者による高齢者施設訪問演 奏活動(高齢者の地域貢献活動)	200,000 円 データ解析費
	財団法人 神奈川県母子寡婦 福祉連絡協議会	藤沢市	シングルマザー支援のための保育園開設 (ひとり親家庭を支援する保育施設の増加をめざす)	500,000 円 工事費用一部

	名称	活動地域	事業内容	助成金額
3期	NPO 法人たすけあい・ゆりの木	横浜市	高齢者・障がい者交流サロンの拡充とカフェの運営	100,000 円 備品購入費
	NPO 法人たすけあいあさひ	横浜市	エレベーターの無い大規模団地の上下移動支援の地域ワーク ショップ開催と政策提言活動	299,000 円 開催費用
	NPO 法人 W.Co ケアびーくる	大和市	移動制約者のための介護付き移動サービス事業	280,000 円 車検費用一部
	W.Co ゴジママ	横須賀市	ニーズに応える新規学童保育施設設立で、児童の放課後 生活を支援する	450,000 円 運営費の一部
	NPO 法人ふじさわ団塊塾	藤沢市	生きててよかった、出前講座で生きがいづくり (元気な高齢者が要介護高齢者をサポートする)	170,000 円 備品費等
	NPO 法人まんま	横浜市	Baby サロンまんま@大和の運営 (隣接する大和市での) 乳幼児・親の居場所立ち上げを支援する	350,000 円 会場費
	NPO 法人ドリームエナジー プロジェクト	藤沢市	ダウン症児の音楽ライブ活動による豊かな社会参加促進	510,000 円 交通費
	認定 NPO 法人 かながわ福祉 移動サービスネットワーク	県域	地域包括ケア・生活支援サービス訪問型サービス D (移動サービス) を推進する学習会、シンポジウム	450,000 円 チラシ費等
	NPO 法人子どもと共に歩む フリースペースたんぽぽ	横浜市	不登校の子供たちの学習・相談交流室開設事業の拡張 (居場所を見 いだせない子ども・若者が安心して過ごす居場所のスペース拡張)	513,000 円 運営費の一部
4期	NPO 法人 Ocean's Love	茅ヶ崎市	1 人の知的障がい児を 4 人で支えるボランティアによる サーフィンスクールの運営 (茅ヶ崎から全国へ)	500,000 円 ボラ費用一部
	海老名女性支援電話「そよ風」	海老名市	悩みや相談を打ち明ける相手のいない特に女性たちに、 傾聴を基本としたボランティアな電話相談	102,383 円 エアコン購入
	おもちゃひろばロリポップ	藤沢市	知的障がい児対象の布製おもちゃ貸出 (知的障がい児の コミュニケーションや生活習慣の定着をねらう)	300,000 円 おもちゃ制作費
	NPO 法人ハッピーマザー ミュージック	横浜市	孤独になりがちな子育てを支援し、親子で楽しめる育児支援 コンサート・人形劇	223,679 円 人形制作費等
	NPO 法人 湘南 NPO サポートセンター	平塚市	「ひらつか地域づくりサポーターズ育成事業」で市民参加の 総合的な地域力を発揮するしくみを作る	170,000 円 研修費
	ピアサポート横浜	横浜市	がん体験者によるがん患者・家族の抱える悩みへの電話相談・ サロン	280,000 円 チラシ費
	NPO 法人海さくら	藤沢市	江ノ島海岸での環境美化 (水質検査) をつうじたまちづくり 活動	340,000 円 水質検査キット
	NPO 法人赤いふうせん地域 活動センター工房和丘	川崎市	障がい者の自立を支援する作業所 スタッフのスキルアップ	164,760 円 研修費用の一部
	子育て応援隊 FROM こうほく net ほいっふ	横浜市	缶バッジ配布で子育て支援者を広げる 「港北子育て応援缶バッジ普及プロジェクト」	350,000 円 缶バッジ制作費
	NPO 法人ピーブウ・ラボ	横浜市	子どもの育ち相談日「ぼれぼれ」での言語聴覚の専門家の 相談による障がい児者支援	425,000 円 講師謝金等
	一般社団法人 結	葉山町	葉山町初の児童発達支援・放課後等ディ立ち上げ支援	277,639 円 パソコン費用
	南林間子育てネットワーク せるくる	大和市	南林間デポーを中心にした「なかまほいく @ 南林間せるくる」 で子育てしやすい街づくり	66,000 円 チラシ印刷費
	一般社団法人ファースト ステップ	川崎市・県域	フードバンクかながわ設立準備事業 (経済困窮家庭の命を 支えるための県域組織設立を準備する)	189,670 円 チラシ費他

	名称	活動地域	事業内容	助成金額
5期（スタート助成）	NPO 法人 フォーラムアソシエ	横浜市港北区	食と農および生活文化に関する教育事業における「オルタナティブ食堂」スキーム	170,000 円
	交流スペース「ほっと舎」運営委員会	藤沢市	藤沢地域の縁側（交流スペース）事業「ほっと舎」の運営	390,000 円
	ワーカーズ・コレクティブ mon ami	横浜市港北区	一時あずかり「きつずわっと」の運営	308,400 円
	スタイルきつず	横浜市瀬谷区	核家族化で身近に頼れる存在がなく、不安をかかえながら育児をしている子育て中の皆が気軽に交流できる場（スタイルきつず）の提供	200,000 円
	ほんそん子ども食堂「いただきます」実行委員会	茅ヶ崎市	ほんそん子ども食堂「いただきます」の運営	200,000 円
	親と子の寺子屋ふれあい自由塾	平塚市	親と子の寺子屋・ふれあい自由塾の活動・運営	399,233 円

子どもいきいき助成 助成団体一覧（2014 年）

神奈川労済生協（全労済神奈川県本部の寄付によるオーダーメイドプログラム）



学童保育所ネスト	小田原市	子育てを経験した地域の女性（ママ）たちによる放課後学童保育事業。家賃の一部補助。	150,000 円
スマイル ミニシティプロジェクト	相模原市	学生が子どもたち共に、仮想のまち「相模原の子どものまち」をつくり運営する体験イベント開催費用一部助成	100,000 円
神奈川区国際協力ネットワーク	横浜市 神奈川区	外国につながる子どもたちへの学習支援者養成講座開催費用（講師謝金、教材費、ボランティア交通費など）を助成	100,000 円
萩園いこいの里ロビー活動実行委員会	茅ヶ崎市	「孤食」「食抜き」等子どもの貧困を背景に食を通じた居場所づくり。「食べよう会」、絵本読み聞かせ等開催費用を助成。	159,000 円
おしゃべリッチ∞	横須賀市	子育てママの居場所活動。市内の他団体との交流を豊富化するための活動費用や独自イベントの開催費用の一部を助成。	72,600 円
NPO 法人あすなろ	横浜市	生活保護世帯や経済的困窮の家庭の子どもたちへの学習支援「あすなろ塾」のボランティアの交通費の一部を助成。	200,000 円
しのぼらんど	相模原市	福島の子どものための保養活動。2016 年 3 月実施分の交通費の一部を助成。	70,400 円
紙芝居文化推進協議会	神奈川県	市民が中心となる「手づくり紙芝居コンクール」の審査員の交通費。	50,000 円
青空自主保育「でんでんむし」	鎌倉市	青空自主保育グループの保育のレベルアップを図る講座講座開催費用を助成。	98,000 円
助成総額			1,000,000 円

事業指定助成プログラム「エラベル」 助成団体一覧

事業指定助成プログラム
「エラベル」

エラベル 1 期（2014 年度）

認定 NPO 法人湯河原地域作業所たんぼぼ	湯河原町	地域で行き場がない障がい者の受け入れ拡大のための施設拡張。設備備品の調達	1,430,862 円
NPO 法人フェアスタートサポート	神奈川県	18 歳で施設を離れ一人で社会に出る子どもたちのキャリアアップ。就労体験・資格取得費用	299,196 円
認定 NPO 法人地球学校	横浜市	外国につながる子どもたちの日本語力アップを支援する漢字教材開発と普及活動	319,154 円
「福島の子どもたちと共に」川崎市民の会	川崎市	放射能汚染土と隣り合わせに暮らす子どもたちの保養プログラムの実施費用	205,506 円
計			2,254,718 円

エラベル 2 期（2015 年度）

認定 NPO 法人 エンパワメントかながわ	神奈川県	いじめ、虐待、性暴力などあらゆる暴力から子ども自身が 身を守る CAP プログラム実施。	638,095 円
ソーシャルコーディネイト 神奈川	神奈川県	若者と共に地域や社会の課題を見つけ、解決の方法を学び 合う場づくりの実施	205,700 円
NPO 法人フェアスタート サポート	神奈川県	18 歳で施設を離れ一人で社会にでる若者たちの公平なス タートを応援する就労支援事業	459,850 円
ミニシティプラス	横浜市 都筑区	町の課題に気づいた子どもたちが大人と一緒に街づくりに チャレンジする	279,309 円
企業組合ワーコレキャリアー	神奈川県	誰もが働ける場づくりを、働きづらさ生きづらさを持つ若 者とワーカースが協働でつくる	1,730,600 円
計			3,313,554 円

※ エラベル助成は、寄付総額から財団運営費 15%を引いた金額を助成しています。上記に記載した金額は助成額です。

「福祉たすけあい基金スタート助成」で市民活動の立ち上げ支援

NEW

市民活動の立ち上げを支援したい

福祉たすけあい基金には様々な市民活動団体から申請があり、
その中で小規模ながらも地域の中で意志ある市民が集い活動する
アソシエーション等からの申請も多々あります。地域では多様化
するニーズを捉え、地域に根差した必然性のある活動が行われて
いますが、活動を持続させるための資金、人材、情報など運営基
盤が脆弱で、立上げ初期での厳しい運営状況にある団体も垣間見
られます。今後、市民が主体となって、多様性を受け入れる共生
社会をめざすためには、意思ある市民が市民社会の課題を解決す
る活動を資金面や運営面のアドバイスなどで応援していく仕組み
が必要です。

※ここでいうアソシエーション活動とは、意思ある市民が自主的につどい、
行っている比較的小きな活動のことを言っています。



「福祉たすけあい基金スタート助成」を創出

福祉たすけあい基金は現在、1年に2回の助成を行っています。そのうち下期に行う1回を、
アソシエーション等の活動の立ち上げや、活動自立するまでの最初の期間を応援する助成とし
て2015年より「福祉たすけあい基金スタート助成」を創出しました。年間2回の助成のうち1回
をスタート助成とします。

スタート助成は、比較的小規模な活動の立ち上げや活動初期等の基盤づくりを応援していく
ために、活動年数は3年未満、事業規模は直近の年間収入300万円未満として制限を持たせま
す。また、最初の助成を受けてから最長3回まで同じ事由で申請することができ、継続的な支援
が出来るようにします。（ただし年度ごとに助成申請していただき選考を行います。）

	福祉たすけあい基金（通常型）	福祉たすけあい基金スタート助成
助成総額	400万円	400万円、2016年度は500万円目標
1件当たり上限	100万円	40万円
活動回数の制限	無（同じ事業では複数回助成しない）	最長3回まで同じ事業で申請可能
活動年数の制限	無	初回申請時団体設立後3年以内
事業規模の制限	無	初回申請時直近の事業収入300万円未満

志ある寄付をお願いします

かながわ生き生き市民基金は2016年度「子ども・若者の貧困に
立ちむかう市民活動の支援」をテーマとして活動しています。

かながわ生き生き市民基金の助成プログラム「福祉たすけあい基金」の活動をご支援ください。
「福祉たすけあい基金」は、地域の福祉たすけあいにかかわる活動を支援するために、志金の寄付
募集を行っています。

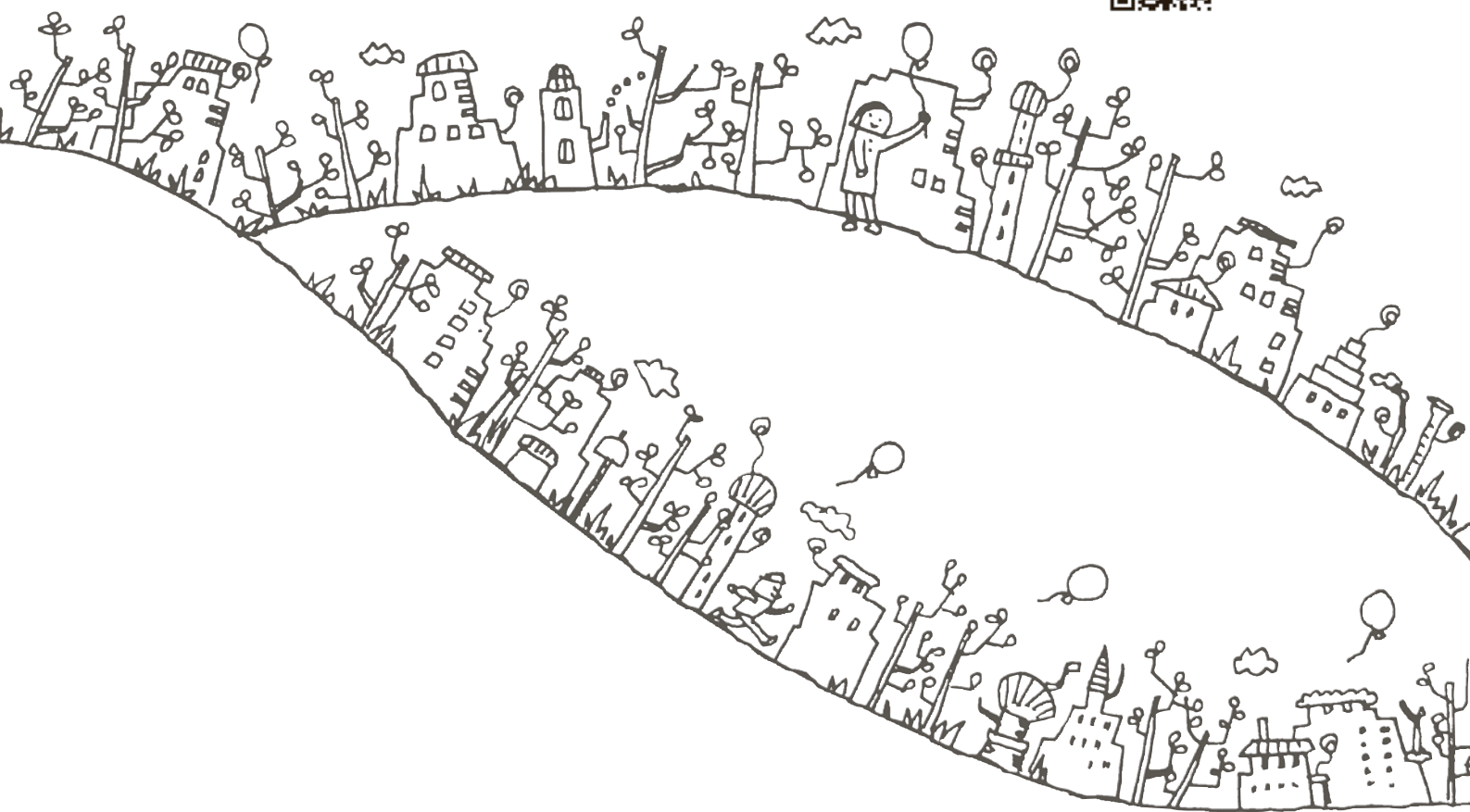
月100円1年間1,200円を3月にご意志を確認したうえで引き落としさせていただきます。引き落
としの金融機関はどちらでも可能です。停止される場合は、毎年の確認時にお申し出ください。

基金事務局までご連絡いただければ、詳細をご説明させていただきます。

生活クラブ生協の組合員の皆さんは、寄付登録されると、共同購入代金と併せて毎月100円を自
動引き落としさせていただくことが可能です。

税制優遇に活用する領収書を発行します。

スマホからQRコードで財団ホーム
ページにリンクできます。



公益財団法人 **かながわ生き生き市民基金**
Kanagawa Lively Citizens Fund

発行：公益財団法人 **かながわ生き生き市民基金**

〒222-0033 神奈川県横浜市港北区新横浜2-2-15 パレアナビル6F

Tel: 045-620-9044 Fax: 045-620-9045

Mail: info@lively-citizens-fund.org

URL: <http://www.lively-citizens-fund.org/>

Facebook: <https://www.facebook.com/livelycitizensfund>

発行日／2016年12月